

## すくわくプロジェクト

### 「水の探求」 2歳児 弥生保育園

(テーマを決めた理由)

- ・水遊びの際に土と水が吸収されるのを不思議そうに見ていた
- ・水と土が混ざり合って、色が変わっていくのを観察している
- ・育てている野菜にじょうろで水をあげている際に、「なんでお水をあげるの？」と疑問に思っていた。  
毎日水をあげ、触れる機会が多かった。
- ・上記の点から形がなく透明であるが様々な変化が感じられること、日々子ども達が触れ合う機会が多くある中で、改めて存在を実感してもらいたいという思いがあった。



# 第1回 令和7年7月24日

水遊びクリアボックスに水を入れ少人数で水に触れる。水を入れる素材をクリアボックスにすることで、より水の透明感を感じられるようにした。

## SさんとMさん

保育士が「お水はどう？」と声を掛けると、Mは「赤くなった！」と言って手を保育士に見せた。水で手が冷えて赤くなったことに気づいたようだ。その後SさんもMさんも手を叩いたり、パシャパシャする音に耳を傾ける。水を介することにより、普段手を叩く音との違いを感じているようだった。

Mさんが水をすくってみようとする。何度か試みた後に「水が取れない」と言っていた。

## Yさん

静かにクリアボックスの水を眺めていたYさん。しばらくクリアボックスの中に片手や両手を押し当てる。保育士の「何が見えた？」の問いにも答えず集中して眺め続けた。5分程経ち、Yさんが顔をあげる。「何が見えた？」の問いかけに、どのように答えて答えてよいか分からなかったYさん。保育士が「(クリアボックスの)下が見えた？」と聞くと、下を指さしながら何度も大きく頷いた。

水が取れない！！



## 第2回 令和7年8月14日

前回同様、水遊びクリアボックスに水を入れ、少人数で水に触れる。クリアボックスと同様に透明なバケツ、漏斗、 Pasta容器、プラスチックカップを用意する。

### Yさん・Tさん

Pastaの容器に漏斗を通して入れると、いっぱいになってあふれ出た。Yさんはクリアボックスに戻入れ、再度水を入れ始める。2回目は中身を確認しながら量を調節して入れ、こぼれないように入れきることができた。うまくいったことがわかると身震いしていた。TさんはPasta容器に入っている水を、クリアボックスの淵にかけてその水を流れていくのを繰り返し見つめる。水が淵に沿って動いていることに興味を持った様子だった。

### Aさん

Aさんは漏斗を通して、Pastaの保存容器に水を入れる。その後水を入れきったPastaの保存容器を、テーブルの上に置き、再度クリアボックスに戻す。Pastaの保存容器が水の中に立っているのに気づき、「浮かんでない」「立ってる」と言う。保育士がバケツをクリアボックスに入れて浮かんでいるのを見せると、Aさんもプラスチックカップをクリアボックスに入れ、「これも浮かぶね」と言う。



# 第3回 令和8年1月9日

円柱の形をしたフラワーベース(透明)をライトテーブルの上に置き水を入れる。石、葉っぱ、どんぐり、花、松ぼっくりをフラワーベースに落とし、水の中で物がどう変化していくかを観察する。

## TさんとRくん

Rさんは「浮いてる！」と落とした松ぼっくりが浮いている様子を見ていたが、石が下に落ちていく様子を見ていた。Tさんは「上に行ってる」と浮いている物を見ていたが、石が下に落ちていくとじっと見つめていた。

## TさんとNさん

下から浮いてくる物を見上げていると「まつぼっくりが大きくなってる」「お花が大きくなった」と大きさの変化に気づいていた。

## EさんとTさん

落どんぐりや石をじっと見つめ、TさんがEさんに落とすものを渡して一緒に水の中に落とし始める。Eさんはライトテーブルの下をのぞきこみ「まだ出てこないよ」と言っていた。ライトテーブルの下から出てくると思ったようだった。落とし終わりに水槽の中を観察し「こっちは大きい」と下から上をのぞいて言い、正面から見たものは「こっちは小さい」と見え方の違いに気づいて言っていた。



## 第4回 令和8年2月19日

前回同様、円柱の形をしたフラワーベース（透明）をライトテーブルの上に置き水を入れる。石、葉っぱ、どんぐり、花、松ぼっくりをフラワーベースに落とし、水の中で物がどう変化していくかを観察する。落ちていく様子に注目できるように言葉かけをしていく。水の量も少なくして表面が見えるようにした。

### YさんとNさん

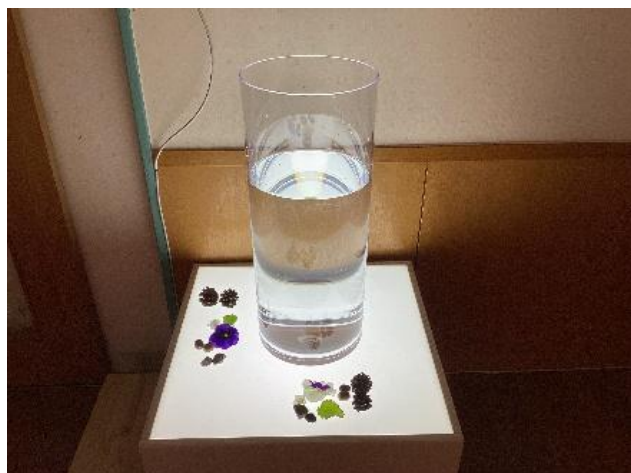
1人ずつ順番に落としていき、下に落ちたり浮いていく様子を見ていた。Yさんは言葉にすることはなかったが、上から覗くように見たり下から上を見上げたり、顔をフラワーベースに近づけて観察していた。

### YさんとMさん

Yさんは「大きい」「お花」と話していた。MさんはYさんの話しも聞いて、「どんぐりも大きくなった」「松ぼっくりも」と答えて、状況を共有しようとしていた。

### RさんとAさん

Rさんが「石はここからぼんと投げるとピューって落ちるの」と言うとAさんが「なんで?」と聞き、「だって石が小さいから」と答えていた。Aさんは「AがこっちでRくんがこっち!なんで?」とフラワーベースの奥側に映る手が左右反転に映っていることに気づいて不思議そうに2人でじっと見ていた。



## (1年を通して)

- ・「浮いている」「下にいった(沈んでる)」「大きく見える」「ここからだ小さい」など子ども達が“見比べる”という視線を持って観察していた。立つ、座るなど見る角度も変えていた。
- ・言葉で表現する以外にも、凝視する姿、音に耳をひそめる様子など、子ども達が五感を使って探求していることに気づけたのは少人数であることが大きかった。
- ・後半は他児の「なんで？」に自分なりの解釈を伝える姿、状況や感情を共有しようとする姿が見られ、友だちとの関りを深めていくきっかけとなった。
- ・職員同士でも共有する時間があり、担当職員では気づけなかった子どもの声や見えなかった姿を知ることができた。今後の課題としてはこのような探求活動を、どう普段の保育に生かしていくかだと思う。

